

## 就任時の学会運営を振り返って (2004年4月～2008年3月 学会大会：34回～37回)

第8 代理事長（現副会長） 西田 俊夫

理事長就任するまでの10年間は、鈴木秀雄理事長（現会長）のもとで、事務局のお手伝いをしながら幹事、理事、常任理事を歴任した経験が大きな財産となりました。さらに、事務局の理事仲間からの刺激もあり、レジャー・レクリエーションに対する意識や学会運営のモチベーションも高めることができました。

坂口正治理事長（現副会長）から引き継ぎ、理事長を2期4年間、会員の皆様にご迷惑をかけながら無事やり遂げることができたのも理事・幹事の先生方による力強いサポートのお陰であり感謝申し上げます。事務局を立教大学から淑徳大学へ移したものの役員任期2年間での学会運営の成果をあげるにも限度がありました。任期1年目は、目の前にある常任理事会・理事の開催準備、学会ニュースの発行、大会号・学会誌の発行、学会大会開催の準備、会員動静などさらに、2年目では役員選挙の準備と目の前の作業に追われる日々を感じていました。任期を2年間から「3年間」にすることによって学会運営をスムーズに運び、しかも新しい企画の取り組むゆとりも生まれてきます。このような理由から、平成19年度の学会総会で提案し、承認されました。さらに、任期中には「歩み・学会誌」の電子化を提案、プライバシーポリシーに伴う名簿の作成及び名簿管理、学会ホームページの充実なども理事会で承認を得ることができました。

理事長を経験して、学会事務局運営を円滑にするため、会員への3つのお願いを申し上げたい。

- (1) 年度会費は、4月～6月までの期間に必ず納入していただきたい。→事業計画の執行に影響します。
- (2) 原稿の締め切り日を厳守していただきたい。→学会誌・大会号の発刊を遅延する要因になります。
- (3) 学会大会へ参加する会員は、大会参加費と希望した弁当代、懇親会費などを期日までに銀行へ入金していただきたい。→大会運営（開催校）に影響します

### 理事長の任期を終えて今思うこと（これからの課題）

- (1) 新入会員の拡充を含めた500名程度の学会員を確保することが望まれます。例えば、院生や研究仲間の積極的勧誘
- (2) 学会大会への参加者（学会員）が150名以上を確保する対策が必要です。例えば、魅力ある企画
- (3) レジャー・レクリエーションの共通理解をもつためにわかりやすい定義や捉え方、キーワード、目標、目的などを具体できに示すべきだと思います
- (4) 会員のモチベーションを高める対策。例えば、レジャー・レクリエーションに関する出版物の発刊
- (5) 学会としての社会貢献への具現化。例えば、学会主導の資格や研修会の実施

学会の活性化に向けて、今までの課題を整理しながら、これからの「研究と実践」の融合化を実現するための目標（短期、中期、長期）をわかりやすく提示すべきであろう。（例えば、5年に一度の記念大会で研究成果を共有するしくみ）

会員は、研究仲間から多くの刺激を受け、研究業績も上がり、しかも社会貢献することができ、「入会したことで自分磨きができた」など多くの声が聞こえてくるような日本レジャー・レクリエーション学会を望んでいます。